

目次

- 1 目次 / 館長挨拶
- 2 企画展「ワラのあった風景」
- 3 企画展「涼む」
夏休みイベント「おばけの夏休み」
- 4 被爆建物案内 / 郷土資料館夏まつり
教室事業日程一覧
- 5 夏休みカンタン工作日程一覧
その他の事業・館外活動日程一覧
博物館実習・インターンシップ
- 6 新着資料
平成 25 年度後半のイベント日程一覧



企画展「ワラのあった風景」展示風景

館長挨拶

今年度も、はや6カ月が経過いたしました。今年は特に梅雨明けが早く、7月・8月には猛暑日となる日が続き、大変過ごしにくい暑い夏となりました。

最近やっと、朝夕めっきり涼しくなり、本格的な秋がそこまで近づいてきた感じのする今日このごろですが、いかにお過ごしでしょうか。

郷土資料館では、今年4月から、職員一丸となってい るんな事業に取り組んでまいりました。

企画展「ワラのあった風景」「涼む～涼をとる道具・風習～」や夏休みのイベント「おばけの夏休み」、そして子どもから大人までの多様な年齢層を対象にした参加体験型教室など、数多くの事業をおこなってきたところです。

いずれの事業にも多くの市民の皆さんに、ご来館、ご参加していただき大変感謝いたしております。まことにありがとうございました。これからの後半も、職員一同力をあわせて、市民の皆さんに喜んでいただけるような「展示」「教室」等の事業を展開してまいりたいと思っておりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。 (館長 新田 清治)

企画展

「ワラのあった風景」

会期:2013年4月13日(土)～2013年6月30日(日)

みなさんは、「ワラ細工」と言われるとどんなものをお願い浮かべますか？おそらく、ワラジやゾウリ、蓑（ミノ）などが挙がると思います。

古くからお米を主食にしてきた日本人にとって、お米の副産物である「ワラ」は、生活道具を作る材料になっていました。現代のように、ビニールやプラスチックなどの便利な石油化学製品がなかった時代、ワラはさまざまなかたちに加工され、擦り切れてなくなるまで使われました。

今回の企画展では、郷土資料館が所蔵するワラ細工関連資料を展示・紹介し、ワラに親しんでいただきました。

(2 ページ目につづく)



「子供ちぐら」

一章の「ワラ細工の世界」では、衣食住や労働、神事などの分類に分け、それぞれの場面で使われたワラ細工を紹介しました。昔、こどもを中に入れて囲炉裏端や畑のすみに置くゆりかごだった「チグラ（広島地方では「フゴ」「ホゴ」などとも呼ぶ）」や、おひつに入れたごはんが冷めないように保温する「メシビツ入れ」などが来館者の方の目を引いていました。



「メシビツ入れ」

二章では、「稲刈りからワラ加工まで」と題して、稲ワラがどのようにしてワラ製品として変化していくかを紹介しました。稲刈りが終わったあと、ワラがどのような工程を経て一章で紹介したようなワラ細工に変化していくのでしょうか。

ワラ細工を始める前に、乾燥しているワラに水をかけて「ワラ打ち」などと呼ばれる槌でしっかり叩きます。ワラは打てば打つほど繊維が強くなり、引っ張っても切れにくくなるのです。「打たれることで強くなる…」とは、人間とワラは似ているのかもしれないですね。

こうして打たれたワラは、ワラ縄や、ワラジ作り、そして「タワラ編み」や「ムシロ編み」「コモ編み」などの道具を使ってさまざまなワラ細工へと変化していきます。

三章では「器械化するワラ加工」ということで、近代に

入ってから作られたワラ加工用の器械を展示しました。大変な力仕事だったワラ打ちや、単純作業が続く縄ないなどを行う便利な器械が発明され、ワラ細工を行う労働から解放された時期もありましたが、その後、現在のような石油化学製品が台頭し始め、ワラ自体は使われなくなっていました。

そして四章では、現在ワラがどのような形で利用されているかを紹介しました。生活道具を作る材料としては使われなくなっていますが、新たに工芸品に姿を変えたり、生涯学習の一環として各地でワラゾウリ作り教室などが行われている様子を紹介しました。



「ワラでなわとび作り」実施風景

企画展関連事業として、「ワラでなわとび作り」を実施しました。

昔のこどもたちは、ワラ縄をなって自分で縄跳びを作って遊んでいたそうですが、果たして普段ワラに触れたことのないこどもたちにも、作れるのでしょうか…。

昔は「縄ないが出来て一人前」と言われていて、こどもたちは大人が縄ないをするのを横で見て自然と覚えていったそうです。教室は2時間程度でしたが、最初の20分が過ぎたころには全員が縄ないをマスターし、どんどん縄を作っていました。

（賀瀬瑠実子）

企画展

「涼む～涼をとる道具・風習～」

会期:2013年7月6日(土)～2013年8月31日(土)



「涼む～涼をとる道具・風習～」展示風景

今年度は夏の企画展として、「涼む～涼をとる道具・風習～」を開催しました。

高温多湿の日本の夏。猛暑といわれた今年の夏は、特にエアコンの出番が多かったのではないのでしょうか。しかし、エアコンがまだ普及する前の時代、先人たちは、どのように暑い夏をしのいでいたのでしょうか。例えば、家屋の風通しを良くしたり、行水をする等、自然を上手に利用しながら、少しでも涼しく過ごせるよう様々な工夫をしていました。こうした先人たちの知恵は、現代の私たちの暮らしの中でも、参考にできるものが多くあります。今回の展示では、先人の暮らしの中で培われてきた、涼をとる知恵や工夫について紹介しました。

展示内容は、Ⅰ江戸時代の涼み方 Ⅱ涼み方の移り変わりという2部構成で、資料点数約75点・写真パネル31枚というものでした。Ⅰでは、江戸時代の浮世絵のパネルを中心に「すだれ」や「うちわ」「蚊帳」といった伝統的な日本の夏の道具のほか、行水などの涼み方や、体を冷やす効果があったといわれる水菓子などについてとりあげました。また、江戸の夏の風物詩ともいえる風鈴屋台や朝顔売りの屋台を会場に再現し、来館者の皆さんに、聴覚や視覚でも涼を感じていただきました。中でも、館内に響く風鈴の音色は耳に涼しく、風情を感じさせてくれるものとなりました。

Ⅱでは、江戸時代以降から昭和30年代にかけての涼み方を、実物資料と写真パネルの展示、昭和の夏の家屋の再現を中心に紹介しました。特に、昭和の扇風機や氷冷蔵庫などは昔懐かしいという声もあり、昭和の夏の雰囲気を感じていただけたようでした。



「打ち水体験」実施風景

この他、企画展関連イベントとして、展示期間中の土日に「打ち水体験」を行いました。近年、エコな涼み方のひとつとして注目される打ち水ですが、柄杓とバケツを使った打ち水は初めてという子どもさんも多く、昔ながらの涼み方が、逆に新鮮な体験となったようです。

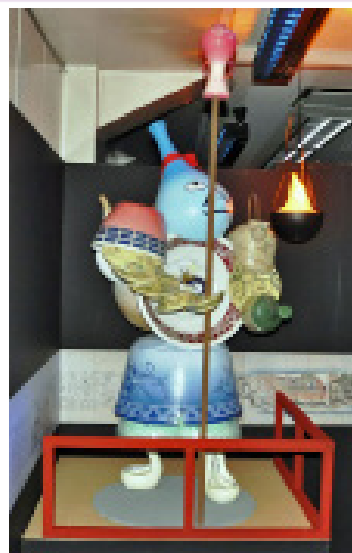
先人の知恵や工夫を学び、日々の生活に取り入れていくことで、また一味違った味わいや新しい発想も生まれてくるのではないのでしょうか。

(正連山 恵)

夏休みイベント

「おばけの夏休み」

会期:2013年7月20日(土)～2013年8月31日(土)



職員にも人気の瀬戸大将

毎年恒例になった郷土資料館のおばけ屋敷。7月20日～8月31日まで実施し、7,192人の人に体験してもらいました。今年のテーマは付喪神。道具が九十九年たつと付喪神(つくもがみ)という存在に変化するという話を元に道具から変化した妖怪を紹介しました。現代の道具が化けた妖怪もいて、こどもたちは妖怪さがしを楽しんでいました。

(田村 規充)

イベント

「郷土資料館被爆建物案内」

実施日：2013年8月6日（火）



被爆建物案内の様子

8月6日原爆記念日に、広島市の平和関連事業の一環として、被爆建物案内を実施しました。内容としては、被爆建物である当館の建物の案内はもとより、戦中・戦後食として知られる江波団子や一銭洋食の試食、戦前の宇品港からの出兵風景をとらえた貴重な映像の放映などが行われました。これらの事業を通して、来館者に原爆投下当時の広島の人々の暮らしぶりを追体験してもらえればと考えています。

当日は、ボランティアの方々の応援を得て、たくさんの来館者で賑わいました。特に、試食コーナーは、日頃味わえない味覚がうけて、たいへん好評でした。

（若島 一則）



実施風景



「郷土資料館夏まつり」

実施日：2013年8月11日（日）

とても暑かった今年の夏、郷土資料館では昨年まで行ってきた「ナイトミュージアム」に代えて、日本の伝統的な夏の暮らしや楽しみを体験するイベントとして「郷土資料館夏まつり」を開催しました。当日は、郷土資料館全館をあげて、次のような催しを開催し、大勢の方に楽しんでいただきました。



水鉄砲で的をねらう射的 うまく的に当たったかな

（1）夏を快適に過ごす昔の知恵を体験しよう 氷柱や打ち水などの涼しくする工夫や、蚊遣りや蚊取り線香などの虫よけの知恵を体験しました。

（2）昔の遊び広場 泥めんこや紙芝居といった昔の子どもたちの遊びやお楽しみを体験しました。

（3）夏のおたのしみ 夏まつりの夜店のような射的やスーパーボールすくい、かき氷を楽しんでももらいました。

（4）たんけん！郷土資料館 照明を落として真っ暗になった郷土資料館の常設展示室を、懐中電灯をたよりに探検してもらいました。

来年はもっと楽しいイベントを工夫して、秋の「駄菓子作り広場」とともに地域のお祭りとして定着していくよう頑張りたいと思っています。

（村上 宣昭）

活動報告

教室事業

4月 14日 (日)	和菓子作り
4月 27日 (日)	かしわもち作り
5月 25日 (土)	ワラでなわとび作り
6月 8日 (土)・15日 (土)	藍でハンカチ染め
6月 21日 (金)・29日 (土)	藍染めTシャツ作り
7月 7日 (日)	七夕飾り作り
7月 21日 (日)	漆喰ボール作り
8月 10日 (土)	うちわ作り
8月 30日 (金)	大人の染色体験
9月 14日 (土)	月見団子作り
9月 21日 (土)	「ごんぎつね」に親しもう

イベント

8月 6日 (火)	郷土資料館被爆建物案内
8月 1日 (火)	郷土資料館夏まつり

夏休みカンタン工作日程一覧

7月 23日 (火)・24日 (水)	ホネホネあやつり人形
7月 25日 (木)・26日 (金)	パタパタこうもり
7月 30日 (火)・31日 (水)	ふわふわおぼけ
8月 1日 (木)・2日 (金)	メリーゴーラウンド風鈴
8月 13日 (火)・14日 (水)	ぐにゃぐにゃ風
8月 15日 (木)・16日 (金)	親子かざぐるま

館外で行った講座や工作教室の指導など

5月 3日 (祝)～5日 (祝) フラワーフェスティバル
会場にて工作指導「鯉の滝上り人形作り」
5月 17日 (金)
縮景園にてボランティア研修「縮景園めぐり」
6月 1日 (土)
広島城メモリアルデーにて工作指導「鯉の滝登り人形作り」
6月 9日 (日)
第18回路面電車まつりにて工作指導
「からくりおもちゃ・のぼる路面電車づくり」
6月 14日 (金)
宇品地区にてフィールドワーク「フィールドワークで学ぶ
宇品築港」
6月 15日 (土)
東区総合福祉センターにて講演「広島城下絵図を読む」
6月 28日 (金)
仁保公民館にて講演「養殖ことはじめ」
7月 10日 (水)
牛田小学校にて工作指導「藍でハンカチ染め」
8月 20日 (火)・21日 (水)
東区民文化センターにて工作指導「藍でハンカチ染め」
8月 23日 (金)
草津公民館にて工作指導「藍でハンカチ染め」



第18回路面電車まつり
工作指導実施風景

博物館実習・インターンシップ

■博物館実習

郷土資料館では、毎年、学芸員資格の取得を目指す大学生の実習を受け入れています。今年度は4大学107名の見学実習と2大学5名の館務実習の学生を受け入れました。見学では、郷土資料館の概要や館務の実際について講義し、館務実習では展示作業や実際の教室事業への参加などを体験してもらいました。

(田村 規充)

■インターンシップ

夏休み期間を中心に2大学5人のインターンシップ実習生を受け入れました。将来の仕事の選択肢として、博物館学芸員を考えている人が多く、自分に役立つ何かを一つでもつかんでいてくれたら良いと思います。

(本田 美和子)

■見学実習

5月 24日 (金) 安田女子大学
5月 30日 (木) 県立広島大学
6月 2日 (日) 広島修道大学
6月 26日 (水) 安田女子大学
7月 6日 (土) 文教女子大学

■館務実習

7月 31日 (水)～8月 7日 (水)

■インターンシップ

8月 9日 (金)～8月 14日 (水) 比治山大学3名
8月 18日 (水)～8月 24日 (水) 安田女子大学2名

新着収蔵資料

2013年4月から9月までに受け入れた資料です。
貴重な資料をご寄贈いただいた皆様、ありがとうございました。

資料番号	資料名	点数	氏名	受入年月日
2013-1001	広島みやげ附広島縣小 地誌 複刻版	1	甲田 邦和 氏	2013. 6. 5
2013-1002	ツマゴ(瓜子)【写真①】	2	松本 主恵 氏	2013. 7. 2
2013-1003	茶器【写真②】	1	岡本 博元 氏	2013. 8. 18
2013-1004	硬貨	54	広島市大河公民館	2013. 8. 22
2013-1005	紙幣	9	広島市大河公民館	2013. 8. 22



【写真②】茶器



【写真①】ツマゴ(瓜子)

2013

後 期

展示紹介

企画展『ごんぎつね』が語る昔の暮らし

2013年9月7日(土)～2013年12月23日(月・祝)

童話『ごんぎつね』のストーリーを交えながら、童話に登場する昔の道具や情景を再現・展示して昔の人々の暮らしを紹介します。

特別展 絵葉書の中の広島～閉じ込められた街の面影～

2013年10月26日(土)～2014年1月19日(日)

被爆前の広島の姿をとらえた絵葉書を通して、郷土広島の知られざる歴史を再発見します。



「戦前の本通り商店街」

企画展 陸軍の三廠～宇品沿線の軍需施設～

2013年1月25日(土)～3月23日(日)

戦前、鉄道宇品線の沿線に設けられていた陸軍軍需施設の歩みと、それらが郷土広島
の歴史の中で果たした役割について紹介します。

ひろしま郷土資料館だより No. 86 2013年10月31日発行
編集・発行 財団法人広島市未来都市創造財団 広島市郷土資料館
〒734-0015 広島県広島市南区宇品御幸二丁目6-20
TEL: (082) 253-6771 FAX: (082) 253-6772